

11 月 4 日(木曜日) ドングリの袋詰め

ビートルズベッドの腐葉土の整備



サギソウ園にウメバチソウ

【参加者:池本幸、越智宏、越智美、梶川、木谷、芝田香、芝田美、鈴木哲、鈴木明、 9名】



「くぬぎの森づくり」のイベント当日、参加者に渡して家で育ててもらうためにドングリを3個ずつ袋に入れていった。公園内で拾って選別し、濡れた新聞紙にくるんで冷蔵庫で保管しておいたものである。(ドングリは乾燥すると発芽しにくく、温度が高いと植える前に発芽してしまうため)



次に、カブトムシの森へ行き、ビートルズベッドの腐葉土をきれいにすることにした。笹や草、笹の根を抜き、スコップや鍬で腐葉土を掘り起こしていった。黒っぽい、山の匂いがするふかふかの腐葉土になっていた。一昨年の12月初めに公園内の広葉樹の落ち葉を集めて入れておいたビートルズベッドの中で、カブトムシの幼虫やミミズ、微生物などが長時間かけて分解してくれてできた腐葉土である。イベント当日、この腐葉土にドングリを植えてもらうことにする。

11 月 11 日(木曜日) イベント前最終打ち合わせ

【参加者:越智宏、越智美、梶川、芝田香、芝田美、杉、鈴木哲、中

計 8 名】

朝から雨がぽつぽつと降る日であったが8名が参加。

毎年参加者にとサツマイモを寄付してくださる吉本さんからサツマイモが届いていた。例年焼き芋にしてふるまっていたが、今年はコロナの影響もあり、生のサツマイモを配ることにした。新聞紙に2~3個ずつくるみ15組分を準備した。

雨が本降りとなってきたため、イベント当日の流れや役割分担、準備物などを確認し活動を終えた。

11 月 14 日(日曜日)

「第7回くぬぎの森づくり」開催

【参加者:池本幸、池本美、越智宏、越智美、梶川
芝田香、芝田美、鈴木哲、鈴木明、中 10名】

9組、29名の参加で開催。

228号に詳しく掲載。



11月18日(木曜日)片方のビートルズベッドを空に

【参加者:池本幸、池本美、越智宏、越智美、梶川、木谷、芝田香、芝田美、杉、鈴木哲、鈴木明、中 12名】



森林公園内の散策路を落ち葉が舞う季節になってきた。12月初めの落ち葉掻きに向けてビートルズベッドの片方を空にする作業を行った。一人が袋を持ち、もう一人がスコップで腐葉土をすくい袋に入れていった。ビートルズベッドの中からはたくさんのカブトムシの幼虫が現れた。きっとふかふかの腐葉土のベッドで気持ちよく過ごしていたと思うが、隣のベッドに移ってもらうことにした。45袋ほど詰めると底の土が現われ、ビートルズベッドはすっきり。

午後から枯れマツの除伐と草刈りを行った。

11月25日(木曜日)「カブトムシの森」周辺の枯れマツを除伐

【参加者:池本幸、梶川、木谷、芝田香、鈴木哲、中 6名】

陽ざしがあると暖かだが雲にさえぎられると寒く感じる天候で参加者は男性だけで6人。女性の参加者が一人もいないのは久しぶりのこと。作業は「カブトムシの森」周辺でよく目につく枯れたマツの除伐、除去作業を行った。

場所は来年以降「くぬぎの森づくり」でクヌギを植樹する予定の場所で、枯れたマツが10数本あり、一帯にはソヨゴ、ネジキがあり背の低い笹と野ばらがびっしり生えていた。午前中はチェーンソー4台、午後は3台で合計15本の枯れたマツと枯れ始めたマツを伐った。枯れたマツは柔らかくおもしろいように切れたが、場所的には園路の近くなので人の通行に注意しながらの除伐。枝葉はチップ処理、幹部分は燃料にする予定。



「ドングリの実」のなる木を育ててみませんか

① 拾ってきたドングリを選別します

- ・ドングリを水を張ったバケツなどに入れ、中間に浮いているもの、上に浮いたものは発芽しないことが多いので取り除きます。
- ・沈んだドングリは3日間浸けたままにしておくとドングリの中に入っているドングリ実を食べる虫が水面に浮かんできます。
- ・底に沈んだドングリだけを植えます。

② 低温状態にして保存します

- ・ドングリは乾燥すると発芽しないので、濡れた新聞紙やおがくずで包み乾燥しないようにします。
 - ・気温が上がると植える前に発芽するので、低温にして休眠状態にする必要があります。
- 冷蔵庫の野菜室など低温にして保存します。
- ・ドングリの発芽は頭(柱頭)の部分から、まず根が出て、その後に芽が出ます。このためドングリを土に埋めるときは横にして、寝かせるように植えます。
 - ・土は、畑の土、腐葉土、赤玉土など
 - ・50cmぐらいになったら日当たりのよい大きく成長してもいい場所に植え替える。

③ 日常の管理は

- ・夏場のカンカン照りで土の表面が乾いたらたっぷり水をやりますが、降雨だけで十分育ちます。
- ・肥料はあげなくてもいいです。

